

多古文化

題字 佐藤静峰

発行 令和8年2月10日

●文化活動の三刀流なんて
素敵じゃないですか!!

第21号

舞踊部 錦照会



多古文化 第21号

目次 contents

| | | | | | | | | | | | |
|-----------|--|--|--|-----------------------------|---------------|-----------------------------|-------------------------------|---------------------------------|---|--|----|
| 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 視察研修に参加して | 第三十三回総会報告 令和七年度多古町文化協会役員・理事名簿並びに令和六年度収支決算書・令和七年度収支予算書 | 華道家元池坊の花を習っている 華道部 池坊花香会 土曜コーラス 土曜コーラス部 | 絵画のような押し花作品 手織りは伝統技法 オカリナの音を多古に エッセイ 帰れクマたち 土曜コーラスに参加して二十年 | 将来が楽しみ 多古町指定文化財巡り | わたしたちの改革物語 | 日々の文化活動三刀流 人と人とのつながりを感じて | 作品に自然を取り入れて 歌の火の山 初心者の私 | 打出の小槌が無い！ 写真部 フォトサークルさざんか | 自作の茶器を茶席に 花文字を始めてみませんか 時を超え、今に伝わる文字 | 目次 会長挨拶 活動を開始して | 表紙 |
| 編集後記 | | 安藤 富枝 | 手芸部 道ばたの詩 手芸部 うえいぶ 器楽部 多古リープス 多古町短歌会 | 囲碁部 多古町愛碁会 郷土史部 多古町郷土史の会 | 将棋部 多古町将棋愛好会 | 舞踊部 錦照会 | 短歌部 多古町短歌会 俳句部 多古町俳句会 | 渡邊 政治 大里美佐子 | 美術部 多古花文字の会 書道部 筆まめの会 | 表千家 渡邊 政治 多古町短歌会 神山 正子 多古町俳句会 高橋 宮乃 錦照会 室岡 妙子 | |
| | | 大野 恵子 | 中岡恵美子 大木 悟 高橋 宮乃 秋山 裕子 | 木下 操 | 前橋 敏行 大木 悟 | 錦生 裕照 | 越川 節子 萩原 晶子 | 政治 | | 会長 | |

活動を開始して

多古町文化協会

会長 渡邊 政治



令和七年五月十日の多古町文化協会令和六年度総会に新役員としてご承認戴き、会長に就任いたしました。今後ともごついで宜しくお願い致します。総会以降、新役員と共に活動を開始しています。最初の活動は、各団体の会員数の掌握でした。前年度は、十七部三十一団体五百五十五名の会員数で、今年度は、十八部三十三団体五百七十四名の会員数で十九名の増でした。内訳は新規入会団体が二団体と休会していた一団体が復帰して頂きました。このように毎年増減がありますが、少しでも長く続けられるよう頑張りたいと思います。さて、昨年度の実施事業は、五月の総会以降七月の文化協会の会費の納入、九月の文化協会助成金の配布、十月の文化協会主催の視察研修、十一月のいきいきフェスタTAKO二〇二五『文化祭』の開催と続きました。毎年のことですが、昨年の『文化祭』は一昨年に続き、実行委員会を設置したことで、開会式と閉会式に『多古町音頭』で盛り上げたことは同じでしたが、「総合同会」の方をお願いしたことは大いなる前進であったのではないかと思います。初めてであったため、連絡事項等の徹底の乱れがあったことがちよつと悔やまれました。また、文化祭にご参加頂く会員の数が少ないのも気になりました。展示部門も芸能発表部門も共に他の方々の作品を見たり、発表を見たりしてお互いを高め合う『文化祭』にしたいものです。これからも会員各位が文化協会の各種事業に参加し、大いに盛り上げて頂くことをお願い致します。

各部の動き

茶道部

自作の茶器を茶席に

表千家 神山 正子

私たち茶道部は、毎月第一日曜日と第四日曜日の月二回コミュニティプラザの茶室にてお稽古をしています。

お茶を点てる動作に帛紗ふくささばきや茶筌ちやせん通し、湯を汲むなどがあり点前を反復練習する間に自ずから茶の心を体得するという大きな意味があります。それは、心を込め



てもてなし、もてなされる事だと思えます。それを發揮出来る場がいきいきフェスタ多古の文化祭です。今年も茶道部表千家として参加させて頂きました。

日頃のお稽古の成果を披露するため、文化祭前は自主練習も行い緊張感もありながらのお稽古でしたが、皆んなで協力して取り組みました。

また、会員の中に陶芸をされている方がいるので、数名の会員が陶芸の手ほどきを受け、茶碗に絵付けを行い、焼いて頂き文化祭の茶席で使用いたしました。

多数の自作茶器をお客様に拝見して頂き、和やかな呈茶席ていちゃせきになったと思います。

これからも、茶道に励んで参りたいと思います。

美術部

花文字を始めませんか

多古花文字の会 高橋 宮乃

多古花文字の会は、発足から五年目を迎えました。毎月第四火曜日九時から多古コミュニティプラザで活動しています。



花文字は、中国で生まれた文化で、縁起の良い吉祥絵を散りばめて制作します。基本の十三種の吉祥絵をまず習い、好きな絵を選んで文字を構成していきます。

同じ文字でも、選ぶ吉祥絵によって、全く違う作品になるので、文字の上手下手に関係なく、誰でも楽しめるのが良いところだと思います。

講師の伊東緑先生が、一人一人のペースに合わせて言葉を掛け、手本を描いて見せてくれますので楽しくゆったりと練習しています。進級するための課題制作もあり、頑張ればプロとして活躍できることです。

書道部

時を超え、今に伝わる文字

筆まめの会 室岡 妙子

兼松先生のご指導のもと、第二第四火曜日の九時から十二時まで文字書の練習をしたり、作品の見比べや、インターネットで文字の成り立ちや筆の運び方、言葉の意味など色々調べたりします。三時間ですが、「あっ」と言う間に過ぎてしまいます。

一年間の事業実施計画として、六月にはふれあい書道展、十一月にはいきいきフェスタTAKO文化祭、一月には、日本書人展に出典しました。書人展では、品川区立美術館まで見学に行き、多くの人の作品を見ることで、大切な時

私達は、いろいろなお祝いにプレゼントしたり、ハガキに添えて便りを出したりして、皆さんに喜んでいただいています。コミュニティプラザ二階に常設展示してありますので、是非ご覧ください。見学や体験も随時できますので、気兼ねなく教室をのぞいてみてください。



間になり、新しい発見に繋がりました。そして、色々な文字の形を知り、歴史を感じ、成り立ちを深めることが出来ます。

歴史の深さから生み出された文字の力強さ・美しさ。そしてしなやかさ。代々受け継がれ形を変え変化の中で、私たちの文明の発達に大いに貢献し言葉となり、時として言霊となり、神秘的に優しさを伝える事ができます。

時を超えて今に伝わる世界各国の文字を覗いて見るのも楽しそうです。

写真部

打出の小槌が無い！

フォトサークルさんか

渡邊 政治

「フォトサークルさんか」の歴史は古く昭和四十四年十月二十日設立された。今年（二千二十六年）の十月には、五十七周年を迎えます。当初の会員数は可成りの数であったと聞きましたが、途中では三名まで会員数が減ったこともあったと聞いています。その後、役員の方々の努力も在って、会員数も最大六十名を数えるほど回復をしたとも聞きました。そんな起伏が激しい会員数でしたが、現在は十一名の会員で活動をしています。

現在も新しい会員を募集していますので、応募者を歓迎します。このような状態ですが、現状打開策の「打出の小槌」が喉から手が出るほど欲しい処ですが中々見つかりません。最近では他の市町村で写真活動のサークルを見つけて、合同での撮影会や撮影旅行を打診して見ようと考えていますが、二団体や三団体での合同撮影会で

はスケジュールを合わせるのが非常に難しいと思われることや他にも色々難しい面もあるようなので、なかなか良い案が浮かびません。現状の我がサークルでは、各人が個々に撮影を行い、毎月の定例会に作品を持ち寄り、各人の撮影した作品の目的や狙いを話し合いながら、他の人からの指摘や参考意見も聞き、お互いに写真の腕を磨くことが出来る定例会を目指して、日々頑張っています。

陶芸部

作品に自然を取り入れて

小陶会 大里 美佐子

小陶会はコミュニティプラザで月二回、粘土で茶碗や皿などの器を作ったり、置き物などのアート作品を制作したりしています。手びねりやろくろ、型、タタラなどの成形方法を先生に教えていただきながら多様な形の作品作りに挑戦しています。

私は花瓶を作ることが多いのですが、大きさや形、装飾、釉薬の種類や塗り方によって世界に一つだけのオリジナルの花瓶が出来上がります。制作の過程で先生にア

ドバイスをいただいたり、会のメンバーに相談したりする事で前向きに楽しい気持ちで取り組む事ができています。

多古町は自然が豊かで四季折々の花々が咲きます。その自然を取り入れて

「どのような形にしようか」「色はどうしようか」などと考えたりする事が日々の生活の中でも多くなりました。たとえば、梅雨の時期には紫陽花を皿などのモチーフにしました。

本焼きが終わり、出来上がった作品は先生やメンバーと評価し合います。それは学びになる事が多く、次の作品への参考にもなります。作品を自宅へ持ち帰り家族や友人にお披露目してから日用品として楽しんでいきます。「ちよっと色が薄かったかな」「形が左右違いな」と思っても、それは趣きがあるから大丈夫と前向きに捉えるようにしています。



現在、小陶会では、いきいきフェスタTAKO文化祭への出展に向けて、様々な作品に取り組んでいます。メンバー全員が、本年度は雛人形の制作に挑戦しました。作り方は同じでも各メンバーの個性が出て素敵な作品になったと思います。

今後は、電動ろくろにも挑戦していきたいと考えています。

また、仕事が休みの日は、少し足を延ばして陶芸の里や陶芸展などにも訪れて色々な作品に触れていきたいです。

短歌部

歌の火の山

多古町短歌会 越川 節子

・半世紀死火山となりしを轟きて
煙くゆらす歌の火の山

鶴見和子

歌の解釈は「半世紀のあいだ沈黙していた私の創作活動は、まるで死火山のようであった。しかし今、轟音をあげて煙を噴き上げる火山のように、再び歌が湧き出してくるのだ」という趣旨である。

この短歌を目にしたときの衝撃



は強烈であった。鶴見和子は大正七年生まれの社会学者である。この歌の背景には、彼女が勉学や研究の為に歌から離れていた五十年の歳月と、六十七歳で脳出血で倒れ生死の境をさまよった体験がある。

病から生還し、右半身麻痺のりハビリという大きな試練のなかで「言葉の力」「自己表現としての短歌」を再発見したのだ。

・倒れし日より左手に筆持ちて歌
ふ歌こそわが命なれ

彼女にとって、脳出血と後遺症は再び創作の炎を取り戻すマグマ

俳句部

初心者私

多古町俳句会 萩原 晶子

きっかけは母の介護でした。母と共に過ごした日々や母の来し方をふり返ると、数々の思い出が胸にせまり、言葉にせずには、いられなくなりました。

そして出会った俳句の世界。俳句会の皆様は全く初心者の私を、心よく迎えて下さり、基礎をから教えて下さいました。

俳句をするに当たって、まずは季語を調べる歳時記。これが目次を見るだけでも楽しく、ああ、日本語ってなんて豊かで美しいんだろと、作る前から感動でした。

例えば、桜の咲く時期の曇天を

指す「花曇」花にまつわる季語が「花冷え」「花見」「花衣」。また代表的な句には鑑賞文が載っており、初心者には大変勉強になります。教えて頂いた第一は、俳句は「写生」が基本ということ、身の回りのなにげないことや自然の移り変わりなど、ちよつと目を凝らして丹念にみつめて、とにかく五七五にしてみる。

なかなか上手く言葉にできず、作ってみると散文的で説明しているような句になってしまったり。

そこで、月一回の対面句会ではどこをどうすると良くなるか、言葉の使い方や推敲の仕方、また、



舞 踊 部

日々の文化活動三刀流

錦照会 錦生 裕照

私はとにかく踊る事が大好きです。三歳で祖母の錦生馨照から手ほどきを受け、現在はお弟子さん達と好きな舞踊道を邁進しております。思い返すと幼い頃、柔らかい体を床にピタリと付けたりすると周りから誉められるのが嬉しくて、祖母との舞踊と並行してストレッチ的にやっていました。

小学生で器械体操にふれ、マツト運動と平均台が好きで、中学生で器械体操部に入部。夢であった側宙やバク転も軽々でき、身軽なあの頃が懐かしいです。

結婚をして子供二人に恵まれました。子育ての中でお友達や仲間が習いたいといってくれて、子供達に教え、多古町と嫁ぎ先の行方

添削をしてくださる等、丁寧に指導して頂きました。

スタートラインに立ったばかりの私ですが、句会の皆様に学びながら、気負わずに楽しみながら、五七五に向かい合って参ります。



多古町芸能発表大会

市どちらでも大切な発表の場となりました。

そんな中、行方市で「親子でよさこい」という公民館事業のチラシを見かけ申し込みました。よさこいの指導をされた方は、手具健康体操の小平郁子先生です。そしてインストラクターを勧められ取得。自分もお弟子さんも、日々体のケアの仕方を知っていれば、長持ちする身体づくりが出来ると思ったからです。

ここから、日舞・よさこい・健康体操と今の私自身の活動スタイル、三刀流となりました。

民 謡 部

人と人とのつながりを感じて

和楽会 三枝 幸子

を活かして、文化活動はもろもろ地域づくりに役立てればと日々奮闘しております。お仲間募集中。これからも宜しくお願い致します。

一昨年の理事会の際、文化祭について、「客席に人が少なく、やる気が出ない」ことについて、PR活動の不足等、対外の方々の呼び込みに焦点をあてて話し合われていたように思います。

昨年文化祭実行委員会を立ち上げたもののまだ、模索段階ではありますが、文化協会会員全員が、部門関係なくお互いの成果を見合っ、交流しようとするれば、自然と言葉も交わすでしょうし、モチベーションが上がると考えます。

振り返ると、私自身も、自分のサークル内の出番も多く、遠方から来られた方の接待等で、舞台袖で観ることはあっても、文化祭を皆なで成功させようという気持ちには欠けていたと思います。

出番が少なくなった事もあり、舞台発表や展示コーナーを見て回りながら、他に呼び掛けることも大事だけど、「自分達の文化祭」という意識をお互いにもっと高め必要があると感じました。

今回、カラオケの発表時に、マイクのスイッチが入っていないまま歌い出し、客席から「スイッチ入ってないよー」と声が掛かりました。プロのコンサート会場ではないので、アクシデントも色々起こりうりますが、貴重な発表の機会なのでやり直しもあって良いと思います。客席からの声援に好感がもてました。



昨年、今年と交流にいられたのが、民謡の方でした。今年の文化祭後の感想で、揃いのTシャツでの発表は、朝の仕度が簡単で良かったけれど、三味線を弾く時はやはり、和装の方が引き立つねと着付けは大変だけど、舞踊の方々を見ていたら、そこまでではないかなと思った次第です。来年に向けて、「ともこ」頑張りたいです。

将棋部

わたしたちの改革物語

多古町将棋愛好会 前橋 敏行

今から九年前、当時多古町将棋大会への参加者は大体十数人と少なく淋しいものでした。

もっと多くの人に参加してもらわなければと、立ち上がったのが当時の役員（五木田、加藤、堀部、新井、前橋）でした。建設的に意見を出し合い、次々とアイデアを実行していきました。それは、

- ① 段級位をやめて点数制にする
- ② 対局時計を導入する
- ③ 魅力ある賞品を提供する
- ④ 毎月の成績記録表を配布することなど。

囲碁将棋において、歴史ある段や級を大会でなくすのはかなりの抵抗がありました。更に、抵抗が強かったのは対局時計でした。今ではどこの将棋会でも普通に使われていますが、当時は「落ち着いて指せない」などと嫌がる人も多くいました。また、高価なので数を揃えるには大変でした。

そして、一年経った頃、様々な軋轢を抱えながらも、参加者は三十人、四十人と見事に増えていきました。しかし、人が増えればその分違う問題も起きてきました。例えばそれは、茶碗洗いと対



戦相手決めです。当時は熱いお茶を一人一人に陶器の茶碗に入れて出していたので、飲み終わった茶碗をその人数分、何度も洗い直すのが大変でした。また、人数の多い試合の対戦相手を決めるのは非常に近い技術で、短時間にしかも、相手の心情を考えた配慮（仲力の悪い者同士や同地区の対戦は極力避ける）を忘れずに組むことは、気苦労も多く神経を使う作業でした。

最高に多かった参加者は四年後の六十三人。今でも常時四十数名の参加があります。これは、これまでの役員みんなの改革への努力の賜物であると自負しています。

囲碁部

将来が楽しみ

多古町愛碁会 大木 悟

愛碁会は、発足から四十年が経過し、現在は会員が十名程度に減少しております。

そのような状況下、子どもたちに教えることは良いアイデアではないかと田村さんや萩原さんと共に検討いたしました。

その結果、コミュニティプラザの二階にある茶室にて、第三土曜日の九時から十一時に、少人数で集まり、活動を行っています。

その会の名前は「子ども初心者囲碁教室」と言います。

愛碁会の開催日は第四土曜日の九時から十五時です。役場附属棟二階。

皆様の参加をお待ちしています。



郷土史部

多古町指定文化財巡り

多古町郷土史の会 木下 操

令和二年三月、猛威を振るつたコロナ禍で、やむなく活動を休止して令和六年、再開すべく会長の選出や役員の新編を経て七年度に活動を開始する運びとなりました。

もとより歩くことが中心となる活動ですが、かつてのように県内のゆかりの地巡りもままならず、まずは足元からと、常磐・久賀・中地区の社寺仏閣巡りを行いました。

教育委員会刊行の多古名所百選を案内に、常磐では松崎神社の逆さ公孫樹と能満寺の修復された鐘楼門、久賀では大門成就院の木食上人入定跡を見学。今でも遠く神崎町から多くの人が詣でるとの事。



松崎神社

寺作東禅寺に千葉介胤直・胤宣及び眷属の墓があり良く管理されています。

午後からは中地区の竹林山妙光寺の下総型題目板碑の見学。屋根がつけられ十四基が整然と並んでいました。正峰山妙興寺の山門と鐘楼は荘厳な佇まいを見せ、山門は県下でも少ない三間三戸の八脚門です。最後に訪れたのが正東山日本寺です。ここは檀林(僧の学校)として二百八十年に亘り全国から五百人もの学僧が集まり、絵図を見てもその壮大さが伺えます。ここは旧檀林として全域が指定されており、更には山門と、ここに掲げられている本阿弥光悦の筆と



上 能満寺 下 竹林山妙光寺

される『日本寺』の扁額、鐘楼があります。文化財巡りを通じて、会員相互生きた郷土史の見学となりました。

手芸部

絵画のような押し花作品

『道ばたの詩』の活動

花すみれの会 中岡 恵美子

私の所属する「花すみれ」は、月一回第三土曜の午前に活動しています。押田道子先生が主宰する押し花サークルは、他に二グループあり、計三グループで『道ばたの詩』は構成されています。今年八月に成田で作品展が開催され、場所柄もあり、訪日外国人を含め、沢山の方々に、私たちの作品を見ていただきました。

私が退職後の趣味探しをしていた頃、たまたま立ち寄った金屋支店で先生の作品を拝見したことがきっかけで、私の押し花作りが始まりました。『道ばたの詩』の名の通り、今までは気付かなかつた雑草のような草花の名前を知り、美しさを感じ、作品として仕上がり、本当は、奥が深



く、興味が尽きません。自宅の庭もこれまで以上に様々な植物を育てるようになりました。その花や葉、根や茎を作品として額の中に納めると、永遠を感じます。私は、まだまだ未熟ですが、先生の手が加わると素敵な作品に仕上がります。私以外にも、多古町外から参加される方もいます。これまで、あまり知らなかった多古町について知ること多くあり、グループのみなさんとおしゃべりも、毎月の楽しみになっています。

ご都合が合えば、是非、活動をご覧いただき、よろしければ押し花作りの体験をしていただければ幸いです。私たち『道ばたの詩』は、新会員を歓迎します。

手 芸 部

手織りは伝統技法

うえいぶ 大木 悟

手織りとは、手作業で経糸と緯糸を交差させて布を織る伝統的な技法であり、微妙な凹凸や柔らかさ、温かみのある風合い、一枚一枚の個性が特徴です。

当会「うえいぶ」では平織りを
行っております。

マフラー、シヨール、ポーチ、
巾着など、多様な作品を制作する
ことが可能です。



器 楽 部

オカリナの音を多古に

多古リープス 高橋 宮乃

活動日は、第一及び第三火曜日に会議室で九時から十二時まで実施しています。
興味のある方は、ぜひ見学にいらしてください。

「多古でオカリナサークルをや

襲われる人の恐怖は解るまい

帰れクマたち御伽の森に

クマによる人身被害が相次ぎ、最近ではクマに対するイメージがだいぶ変わってきていると思う。我家にはアイヌの木彫りのクマの親子がどっしりと構えている。当時は可愛いものとして買ったと思う。子供の頃に読んだ『クマとまたぎの物語』には狩猟を生業とし、獲ったクマに感謝して肉と毛皮を頂いたと言う。そんなクマに対する存在は神秘的であったと思う。

新聞では、警察や自衛隊のこと

エッセイ

帰れクマたち

短歌部 秋山 裕子

ろう。」と先輩に声を掛けられてから、今年で六年目になりました。一昨年急逝してしまった先輩への想いを胸に、二十人の仲間とオカリナの音色を多古に響かせ楽しんでいきます。

オカリナは、イタリアで生まれ、た土笛で、今使っているオカリナも成田市在住の千葉稔先生が一つずつ手作りされているものです。優しく素朴で吹く人によって全く音色が違うのも魅力の一つです。

も読んだが、自衛隊法などの規定から銃でクマを駆除することは出来ない。箱罾の運搬・設置や見回り、地元のハンターの駆除を側面から支援する活動だと言う。クマに襲われて死亡した人は、今年度過去最高と聞いている。秋田県湯沢市で男性を襲った後に民家に六日も留まったと言う。幸い千葉県には出ないが、今やどこに出てもおかしくないこの時期。地球温暖化で人里近くには食べ物が沢山あり、餌に対する執着心が非常に強いクマは学習能力もあると言う。

オカリナの音色には、心を穏やかにするリラックス効果もあるとのこと。です。

銚子や旭、成田のサークルとの交流コンサートやデイサービス等施設で演奏する回数も増えてきました。たこらぼで行う「オカリナと歌おう」も皆さんの歌に合わせオカリナを吹くのが楽しく、練習の励みになっています。

昨年からは成田市の前田圭代先生を講師にお招きし、全体レッスンを一度美味しいものを覚えると人里に繰返し来て人肉の味が親から子へ受け継ぐことは恐ろしいと思う。プナの実等、豊作な年はベビラッシュになると聞く。そのような事で個体が増えて来たのであるうか。かつては絶滅の恐れもあり保護対象になっていたと言う。フランスのとれた個体数であればと思う。クマにとって冬眠は本来の姿であり、生態系を研究し冬眠の出来るよう制御出来ないものであろうか。クマの言い分も聞いてみたいが、子供達の歌う「森のくまさん」を心より楽しく歌える日の来ることを願いたいと思う。



だけでなく個人のレッスンも受けられるようになりました。
 クリスマスコンサートでは、千葉稔先生のゲスト演奏もありますので、是非お越しください。
 通常練習は「たこらぼ」にて、第二・第四日曜日の九時から行っています。見学や体験だけでも是非おいで下さい。
 これからも和気あいあいの楽しい雰囲気大切に、多古に才力リナの音色を響かせたいと思います。



コーラス部

土曜コーラスに参加して20年

土曜コーラス 大野 恵子

私達は、第一と第三、土曜日に「たこらぼ」で練習しています。
 トワエモアの懐かしい曲「誰もいない海」、「With You Smile」中学一年生の音楽の本に載っている曲でチャレンジでした。「もしもピアノが弾けたならば」は西田敏行さんの代表曲でした。「あなたと

いるとき」は、フォレスト（全員が音大を卒業した男性九名・女性十三名）のメンバーで、「夫婦愛」について改めて考えさせられた曲でした。

歌を通して、様々な人生の縮図を、観ている様な感覚になったりして、言葉（ことば）が持つこと（こと）を思い出しました。

華道部

華道家元池坊の花を習っている

池坊花香会 安藤 富枝

令和七年の豆撒きに、九十歳の御礼を頂いたせいではありませんが、頭の中が空洞化して、忘れてしまうことが多くなりました。そういう事を理由に、この原稿も何度も会長さんにご迷惑をお掛けしました。お許しください。

この度は、文化祭出展五回目なので、花香会の全員（と言っても四人）で、感じていることを書くようにお願いしようと思っていたのに、お稽古当日になっただけ、お花を生ける事に夢中になり、すっかり忘れてしまいました。

多古町文化協会から華道の参加の火が消えそうになったのを寂しく思っ、この花香会を始めた時の気持ちは今も同じで、年甲斐もなく楽しんでる次第です。

お隣の「花あそびの会」の方々と親しくして頂いて、続いていますので、どうぞ皆様「コミュニケーション」プラザ三階の手前から入った場所まで、毎年出展させて頂いておりますので観に来て下さい。そしてやってみたい人はどうぞ御参加下さい。

お稽古日

・日時 第二・第四金曜日

十三時から十七時

・場所 プラザ二階 第四研修室



第三十三回 総会報告

令和七年五月十日(土)多古町
コミュニティプラザ多目的ホール
にて第三十三回総会が開催されま
した。来賓として多古町教育委員
会の菅澤行男教育長と文化協会顧
問の小川重則氏をお招きし、小倉
理事長の進行で開始されました。

前橋会長の挨拶の後、来賓の挨
拶を菅澤行男教育長にお願いし、
続いて、報告事項に移り、新たに
二団体「かるた・百人一首愛好会」
と「手具健康体操トライビクスダ
ンス多古」の加入が報告されまし
た。また、退会団体は「詩吟部心
友会」。復帰団体は「郷土史部多
古郷土史の会」がそれぞれ報告
されました。これにより会員数が
昨年より十九名増となりました。
議事は前橋会長が議長となり、
議案第一号 令和六年度事業報告



議案第二号 令和六年度収支決算
書及び会計監査報告
議案第三号 令和七年度事業計画
議案第四号 令和七年度収支予算
書
議案第五号 多古町文化協会規約
の改正
議案第六号 令和七年度役員選出
以上、第一号から第六号までの
各議案はいずれも承認されました。
総会後の記念講演は、真言宗智
山派住職の松本照龍先生より
「日々是好日」と題してご講演を
頂きました。特に教員時代のお話
や仏教のお話など幅広くためにな
るお話ばかりで時間が足りない位
でした。誠に有難う御座いました。

令和7年度多古町文化協会役員・理事名簿

| 職名 | 氏名 | 部名 | 理事名 | 会員数 | 部名 | 理事名 | 会員数 |
|------|------------|-----|-------|-----|-------|-------|-----|
| 会長 | 渡邊政治 | 茶道部 | 神山 正子 | 11 | コーラス部 | 高橋 玉江 | 64 |
| 副会長 | 大野恵子・林かよ子 | 華道部 | 安藤 富枝 | 4 | 囲碁部 | 大木 悟 | 20 |
| 理事長 | 小倉光男 | 写真部 | 渡邊 政治 | 24 | 将棋部 | 前橋 敏行 | 58 |
| 副理事長 | 大木 悟・三枝幸子 | 美術部 | 高橋 宮乃 | 45 | 書道部 | 室岡 妙子 | 8 |
| 庶務会計 | 小川清治・伊藤恵美子 | 陶芸部 | 小倉 光男 | 17 | カラオケ部 | 鈴木 満男 | 45 |
| 監事 | 鈴木秀義・並木京子 | 短歌部 | 秋山 裕子 | 20 | 郷土史部 | 木下 操 | 10 |
| 顧問 | 菅澤行男・前橋敏行 | 俳句部 | 渡部 健 | 21 | ダンス部 | 小池 君代 | 155 |
| | | 民謡部 | 三枝 幸子 | 4 | 手芸部 | 桐谷 貞子 | 22 |
| | | 舞踊部 | 越川 節子 | 26 | 器楽部 | 高橋 宮乃 | 20 |
| | | | | | 合計 | | 574 |

令和7年度 多古町文化協会収支予算書

| 収入 | | 支出 | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 科目 | 本年度予算額 | 科目 | 本年度予算額 |
| 会費 | 288,000 | 会議費 | 10,000 |
| 補助金 | 900,000 | 総会費 | 30,000 |
| 寄付金 | 1,000 | 旅費 | 10,000 |
| 繰越金 | 7,716 | 消耗品費 | 15,000 |
| 積立金引落 | 66,284 | 通信費 | 10,000 |
| 雑収入 | 1,000 | 各部助成金 | 900,000 |
| 計 | 1,264,000 | 事業費 | 260,000 |
| | | 積立金 | 10,000 |
| | | 負担金 | 10,000 |
| | | 慶弔費 | 10,000 |
| | | 予備費 | 4,000 |
| | | 計 | 1,264,000 |

令和6年度 多古町文化協会収支決算書

| 収入 | | 支出 | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 科目 | 本年度決算額 | 科目 | 本年度決算額 |
| 会費 | 277,500 | 会議費 | 10,767 |
| 補助金 | 900,000 | 総会費 | 25,281 |
| 寄付金 | 1,000 | 旅費 | 0 |
| 繰越金 | 735 | 消耗品費 | 21,894 |
| 積立金引落 | 70,000 | 通信費 | 7,290 |
| 雑収入 | 19 | 各部助成金 | 900,000 |
| 計 | 1,248,254 | 事業費 | 255,306 |
| | | 積立金 | 10,000 |
| | | 負担金 | 10,000 |
| | | 慶弔費 | 0 |
| | | 予備費 | 0 |
| | | 計 | 1,240,538 |

収入支出差引残金
(次年度へ繰り越し)
7,716円

視察研修に参加して

昨年は、大阪万博が開催された年でしたが、文化協会が実施した視察研修は、令和七年十月十五日場所は、過去に実施された『つくば万博』の地、茨城県つくば市にある『筑波実験植物園』と茨城県坂東市にあるミュージアムパーク『茨城県自然博物館』の二か所に行ってきました。

最初に訪れたのは『茨城県自然博物館』でした。ミュージアムパークというだけあって、広さは約十六ヘクタール（十六町歩）程で大変大きな処です。

その中に三階建ての本館（延べ床面積にして約一万二千平米）。本館の中にシンボル展示場所や

- (一) 進化する宇宙
- (二) 地球の生いたち
- (三) 自然のしくみ
- (四) 生命のしくみ
- (五) 人間と環境
- (六) デスカバリープレイス
- (七) 企画展示室 というような展示会場があり、一日ではとても周りにきれいなほどの展示物がありました。特に入場口のシンボル展示は

中国蒙古自治区から掘り出された世界最大級の松花江マンモスが展示されていました。また、視察研修の際には多くの小学生の団体が見学に訪れていました。昼食はこのレストラン（ル・サンク）に予約をしていましたので何人かのグループ毎に美味しくいただきました。

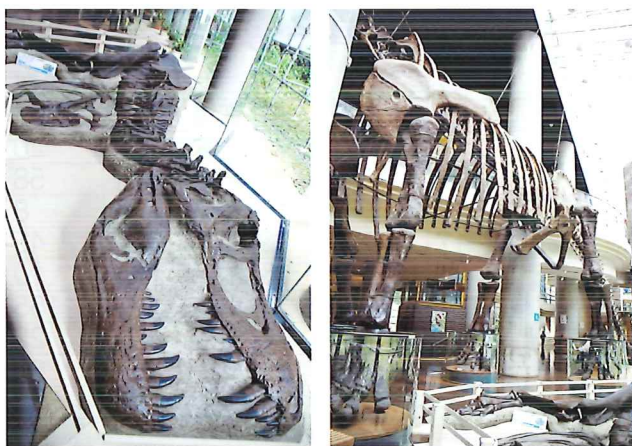
次に訪れたのが、国立科学博物館が植物の研究を推進する為に設置した『筑波実験植物園』を訪れました。一九八三年に開園。敷地面積は約十四ヘクタール。日本の代表的な植物と世界の熱帯や乾燥



地に生育する植物等が植栽され、約三千種を見ることが出来るそうです。この他温室施設が三棟ありました。

- ① サバナ温室
- ② 熱帯雨林温室
- ③ 水生植物温室

私たちは、熱帯雨林温室を見ましたが、珍しい花が咲いていたので、スマホで撮りまくっていました。これら二つの施設は、是非お子さんやお孫さんと行かれることをお勧めします。



編集後記

今年の正月三日、目覚めると辺りは銀世界の素晴らしい景色。

純白のあり様は何と美しい事かと感嘆の声を放っていた。矢張り淡雪のごとく消え去る干葉の雪景色は最高だね。そんな美しい雪景色を見ながら、我町の文化活動もこの一年間、干葉の淡雪にならないうような活動して行かなければと深く考えさせられた日だった。M